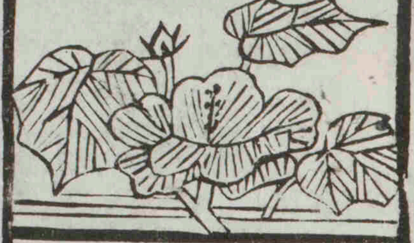
解剖訓蒙 五官論 二十

慶應義塾大學醫學部富士川文庫

204

K10-2

F 18
カ-22

491.1
Ka-3
18
No. 2404
12 K10-2
慶應義塾大學醫學部圖書
慶應義塾大学医学情報センター 昭和47年7月10日
富士川文庫
2454

慶應義塾大學醫學部北里圖書

解剖訓蒙巻之二十

米利堅　解剖學教頭約瑟列第著
日本　文部少助教中泉　正譯

五官論

耳

耳（イア）即チ聽具ハ、造搆甚タ複雜ニシテ、其多分ハ顳顬骨岩狀部ノ内ニ伏藏ス、之ヲ外耳、中耳、内耳ニ區別ス

外耳

外耳（エキステルナル、イア）ハ、耳廓ト外聽道ヨリ成ル

甲アウリキユラ
乙ロビユロスアウリキユラ
丙カプリヲロス

耳廓（甲）（アウリクル）即チ通稱スル耳ハ、下腭關節ト顳顬骨乳頭部ノ間ニ、外聽道ヲ結合ス」其固有ノ形狀ハ喇叭ノ開端ヲ、外方ヨリ壓平シタルカ如クニシテ專ラ纖維軟骨ヨリ成ル」而テ外面ノ廻轉セル起線、及ヒ窩ハ、內面、即チ耳背ノ成形ニ反應ス」、又耳垂（乙）（ロビト）稱スル、下低セル部ハ、皮膚ノ嚢ヨリ成リ、內ニ結締織ト、脂肪織ヲ充塡ス

耳廓ノ縁ハ、外聽道ノ上部ヨリ、上后及ヒ下方ニ彎曲ス、是レ即チ耳輪（丙）（ヘリキス）ナリ」此部ト、溝渠ニ由テ、隔離スル起線アリ、之ヲ對耳輪（アンチヘリキス）ト稱ス此上部ハ分岐シ、其間ニ三角形ノ窩ヲ圍擁ス」

甲ヒルコス

外聽道口ノ前ニ當テ、圓錐形ノ隆起アリ、之ヲ耳（甲）珠（トラギュス）ト稱ス、又圓形ノ截痕ヲ以テ、耳珠ト隔離シテ、對耳輪ノ下部ニ、占位スル隆起ヲ對耳珠（アンチトラギュス）ト稱ス而シテ對耳輪ノ內部ニ於テ、外聽道ノ口ニ進メル、半螺旋形ノ深凹部アリ、是即チ耳殼（コンカ）ナリ

耳廓ハ、耳垂ヲ除クノ他、悉ク軟骨膜中ニ包裹セラル、纖維軟骨ノ板ヨリ成リ、皮膚ヲ此膜ニ密着ス」此軟骨ニ、數箇ノ裂アリ、結締組織ヲ以テ之

レヲ充ツ、故ニ耳珠ト耳輪起端ノ中間及ヒ耳輪ノ下端ト、對耳珠ノ間ニハ、纖維軟骨ヲ欠ケリ又耳珠、耳輪ノ前部ニ於テ短裂アリ、而テ此耳輪ノ前部ニ、小圓錐形ノ隆起アリ、之レヲ耳輪突起（プロセッス、オブ、ゼ、ヘリキス）ト稱ス

耳廓ノ纖維軟骨ハ、其質薄クシテ、甚タ脆弱ナリト雖モ、自己ノ軟骨膜ニ因テ、頗ル粘稠性ヲ領得ス此部ノ皮膚ハ、他部ト同シク、細毛ト皮脂腺ヲ裝ス、其腺、耳廓ノ窩中、殊ニ耳殻ノ部ニ於テハ、發育スルヿ最モ盛ナリ

甲ム、ヘリシスマイイル

耳廓ハ、皮膚ヲ以テ連合スルノ他、又靭帶ニテ頭側ニ附着ス前靭帶（アンテリオル、リガメント）ハ、強剛寛廣ニシテ、耳輪突起ヨリ、衡骨突起ノ根ニ展延ス、后靭帶（ポステリオル、リガメント）ハ、耳殻ノ凸隆部ヲ、乳頭突起ノ根ニ附着セシム、

耳廓ハ、纖維軟骨ト、皮膚ノ中間ニ於ケル五箇ノ小筋ト、耳廓ヲ頭側ニ結合スル處ノ、三箇ノ稍ヤ大ナル筋ヲ有ス、此諸筋ハ、横紋纖維ヨリ成リ、其作用、甲ハ甚隱微ニシテ、乙ハ全クナシ

甲小耳輪筋（スモーラル、マスクルス、ヲヴ、ゼ、ヘリキス）ハ、耳輪起端ノ短矮

甲 ム、ヘリシス、メジヨル
乙 ム、タラギコス
丙 ム、アンチタラギコス
丁 ム、タランスウェルソス、アウリキユラ

ナル小束ナリ

（甲）大耳輪筋 グリートル、マスクル、ヲヴ、ゼ、ヘリキス ハ、耳廓ノ前部、耳輪突起上ノ細帯ナリ

（乙）耳珠筋 マスクル、ヲヴ、ゼ、タラギュス ハ、耳珠外面ノ纖維ノ端ナル小板ナリ、

（丙）對耳珠筋 マスクル、ヲヴ、ゼ、アンチタラギュス ハ、對耳珠ヨリ耳輪ノ下端ニ展延スル一帯ナリ

（丁）横筋 タランスヴェルス、マスクル ハ、稍大ニシテ、耳廓ノ后部ニテ、纖維ノ板ヨリ成リ、耳殻ヨリ展延シテ、對耳輪溝ヲ界スル起線ニ達ス

甲 ム、アウリキユラリス、ソペリオル
乙 ム、アウリキユラリス、アンテリオル
丙 ム、アウリキユラリス、ポステリオル

（甲）上耳廓筋 ソペリオル、アウリキユラ、マスクル ハ、廣薄ニシテ、蒼白色纖維ノ扇狀板ヨリ成リ、顱枕腱膜ニ起リ、下テ對耳輪窩ノ后部ニ附着ス、其作用ハ益シ耳廓ヲ上方ニ引クナラン

（乙）前耳廓筋 アンテリオル、アウリキユラ、マスキユル ハ、前筋ニ比スレハ、著明ナラスシテ、薄キ横向ノ小束ヨリ成リ、顳顬莢膜ニ起リ耳輪耳殻ニ附着ス、其作用ハ益シ耳廓ヲ前方ニ引クナラン

（丙）后耳廓筋 ポステリオル、アウリキユラ、マスクル ハ、強剛ニシテ上ノ二筋ヨリ稍紅色ヲ呈ス、而テ二三ノ小束ヨリ成

甲 ミートス、ヲーヂトリユス、エキステルノス

リ、乳頭突起ニ起リ、耳殼ノ后部ニ附着ス其作用ハ、益シ耳廓ヲ后方ニ引クナラン、

耳廓ハ、血管ト神經ニ富饒ス、其動脉ハ、顳顬動脉ノ前后兩耳枝ト、外頸動脉ヨリ分派シ來リ、纖維軟骨上ニ於テ、顯著ナル網狀ヲ成ス其靜脉ハ、顳顬靜脉ニ終ル神經ハ、頸神經叢ノ大耳枝ト、顔面神經ノ后耳枝、及ヒ下顎神經ノ耳顳顬枝ヨリ來ル

甲外聽道（エキステルナル、ヲーデトレー、ミートス）ハ、耳廓ヨリ延展セル短ナル外部ト、皮膚ノ展延ヲ以テ貼裹シタル内部ノ骨質聽道トノ二部ヨリ成ル其管耳殼ヨリ鼓室ニ達シ、長サ大約一「インチ」ニシテ、内前方ニ向ヒ通過スル中ニ上下方ニ屈曲ス起端ハ縱楕圓形ヲナシ、中部ハ最モ細狹ニシテ其底ハ鼓膜ヲ以テ閉鎖シ、而シテ耳廓ヲ以テ遮留聚合セル音響ヲ、鼓室ニ傳送ス此外部ハ、皮膚ヲ除クノ他、上方ニ向テ開裂セル、纖維軟骨ヨリ成リ、細片ヲ以テ耳廓ノ纖維軟骨ト連合ス其裂間ハ、纖維膜ヲ以テ充塞シテ、之ヲ全管ト成ス此管ノ外部ト、耳殼ノ中間ニ在ル裂モ、亦タ纖維膜ヲ以テ

甲グランジユラ、セルミノサ
乙セレー

閉鎖シ、内端ハ環靭帯「アニユラ、リガメント」ヲ以テ、骨質聴道ノ端ト結合ス

此外部ノ皮膚ハ、較々厚クシテ、許多ノ小毛ト、皮脂腺ヲ具フ」其面ニ耵聹腺甲「セルミノース、クランヅ」ノ數ロアリテ、穿點ヲ呈ハス、是耵聹乙「セルメン」ヲ分泌スル腺ナリ」此腺ハ帯褐黄色ノ小圓体ニシテ、皮下組織中ニ包埋セラル、其質ハ、迂曲シ圓体ヲ為セル一條ノ細管ニシテ、其管ノ末端ハ、皮膚ヲ穿チ此腺ノ排泄管トナル

其内部ハ剥露骨ノ外聴道ニ當リ、外部ヨリ尚才

細長ナリ」此部ヲ貼裏セル皮膚ハ、甚薄クシテ、小毛及ヒ腺ヲモ有セス、此底ヲ閉鎖セル鼓膜ト連合ス、

此部ノ血管ト神經ハ、耳廓ニ分布スル者ト、同枝別ナリ

中耳

中耳甲「ミッドル、イアー」ハ、鼓室ト乳頭洞及ヒ「エウスタキユース」管ヨリ成ル

鼓室乙「テイムパノム」ハ、顳顬骨岩狀部中ノ不整ナル空洞ナリ、其高サト横徑ハ、共ニ大約半「インチ」ニシテ、

メムブラナ、ティムパニ

内外ノ直徑ハ、纔ニ一二線ヲ過キス」此蓋ハ、鼓室ヲ頭顱腔ト分隔スル骨板ニシテ、其牀ハ、内外二壁ノ中間ニ在ル溝渠ナリ」此室ノ上後部ニハ、乳頭洞ヲ通シ、前部ハ、狹細トナッテ「エウスタキュース」管ニ遷延ス、而テ外壁ハ、鼓膜ヨリ成リ、内壁ハ、迷路ニ境界ス、

鼓膜（甲）ティムパニキ、メンブレーン ハ、圓形ノ中隔ニシテ、鼓室ト外聽道ヲ分隔シ、此部ヨリ傳送スル音響ヲ受ク」

此膜ハ、稍漏斗狀ニシテ扁平ナラス、斜メニ占位シ、外面ハ、凹ニシテ下前方ニ向ス、而テ内面ノ中心ニハ、槌骨ノ手柄ヲ附着シ之レニ其膜ノ震盪ヲ傳達ス、其周緣ハ、多分細溝中ニ附着ス」此溝、嬰兒ニ於テハ、一箇ノ骨環中ニ在リテ、其環漸次ニ發育スルニ從ヒ、外方ニ延長シ、終ニ骨質外聽道ニ抱合セシ者ナリ

此膜ハ、薄クシテ透明ナル、纖維組織ノ層ヨリ成ル」其外面ハ、外聽道表皮ノ連續ヲ以テ被包シ、内面ハ、鼓室裡粘膜ノ展延ヲ以テ貼裏ス」其纖維層ハ、中心ヨリ放射セル纖維ト、周圍ニ在テ環狀ヲ為セル纖維ヨリ成ル

甲 プロモントリユム
乙 フェ子スタラスオヴァリス
丙 フェ子スタラロチユンダ
丁 メンブラナ、ティムパニ、セコンダリア

皷室ノ内壁ニ於テ、一箇ノ凸隆アリ、是蝸牛殻ノ突出ニ由テ形成スル〔甲〕皷室岬（「プロモントリ」トレー）此岬背ニ一孔アリ〔乙〕卵圓窓（オヴェル、ウヰンドー）ト称ス、是前庭ニ通スト雖𪜈、鐙骨ノ底面、常ニ之ヲ閉鎖ス、此窓ト岬ノ上部ニ當テ、前ヨリ后方ニ進メル、一ツノ起線アリ、是顔面神経ヲ通スル「ハルロピアン」管ノ路ヨリ生ス、又岬ノ下部ノ後ヘニ、一ツノ小窩アリ、其底ニ一孔ヲ有シ、蝸牛殻ニ通ス、之ヲ〔丙〕圓窓（ラウンド、ウヰンドー）ト称ス、是亦〔丁〕第二皷膜（セコンダレー、ティムパニキ、メンブレーン）ヲ以テ閉鎖ス、此膜ハ、繊維層ヨリ成リ、外面ハ、皷室ノ裡膜ヲ以テ被包シ、内面ハ、蝸牛殻ノ内膜ヲ以テ貼裏ス、皷室ノ後部ニ下行スル起線アリ、以テ「ハルロピアン」管ノ錐顳乳頭孔ニ連續スルヲ示ス、又〔甲〕三稜柱（ピラミッド）ト称スル、中空ニシテ圓錐形ナル隆起アリ、此起線ヨリ前方ニ突出ス

甲 ピラミス

爰ニ數箇ノ小骨アリテ、皷室ノ上部ニ占據ス其形状ノ類似スルヲ以テ、之レヲ槌骨、砧骨及ヒ鐙骨ト称ス、各々其順序ニ従テ、互ニ運動関節ヲ為シ、槌骨ハ、皷膜ニ附着シ、鐙骨ハ、卵圓窓ニ連リ各骨ノ聯續ニ由テ膜ノ震盪ヲ此窓ニ傳達ス

甲 マルレウス
乙 マニユブリユム
丙 プロセッスロンゴス
丁 プロセッスブレヴヰス
戊 インコス

槌骨(甲)(マルレット)ハ、其位置直立ス、而テ其頭ハ皷室ノ上部ニ在リ、其手柄ハ、皷膜中心ノ纖維層中ニ下沈ス。頭(ヘッド)ハ圓形ヲ為シ、其後部ニ、軟骨ヲ以テ被包セル楕圓ノ關節面アリ、之レニ由テ砧骨ト連接ス。手柄(乙)(ヘンドル)ハ、稍(ヤ)捻聚收縮セル細長ノ突起ナリ。頸(子ッキ)ハ、纔ニ絞縊シテ、二箇ノ突起ヲ生ス。長突起(丙)(ロング、プロセッス)ハ、細キ棘ニシテ、頸ヨリ殆ト直角ニ突出シ、淺窩裂ニ入ル。短突起(丁)(ショルト、プロセッス)ハ、頸根ニ於ケル圓錐形ノ隆起ニ過キス。

砧骨(戊)(アンヴヰル)ハ、乳頭洞口ノ近傍ニ於テ、槌骨ノ後ヘ

甲 ラモス、ホリソンタリス
乙 ラモス、ヴェルチカリス
丙 ヲスオルビキユラール

ニ列ス。其體(ボデー)ハ、不整ノ方形ニシテ、前部ハ、楕圓ノ關節面ヲ有シ、槌骨ノ頭ト聯接ス、後部ハ、分岐セル一對ノ突起ヲ生ス、而テ其下部ニ在ル者ヲ長シトス、即チ短突起(甲)(ショルト、プロセッス)ハ、後方ニ突出シ、靭帶ヲ以テ、皷室ノ後部ト結合ス。長突起(乙)(ロング、プロセッス)ハ、細長ニシテ屈曲シ、槌骨ノ手柄ト、殆ント平行シ下ル、其末端ハ、内方ニ鐙骨頭ト聯接スル環狀突起(丙)(ヲルビキユラ、プロセッス)ヲ保持ス。嬰兒ニ於テハ、此突起、一箇ノ別骨ナレ𪜈、砧骨ト同シク、速ニ化骨ノ抱合セシ者ナリ

甲 ステーフス
乙 リガメントム、ソペリオルス

鐙骨(甲)（ストルフ）ハ、地平ニ位シテ、砧骨ヨリ内方卵圓窓ニ向フ、其頭（ヘッド）ハ、扁平ニシテ、頂端ニ、軟骨ヲ以テ被包セル、凹ノ関節面アリ、砧骨ノ環狀突起ト聯接ス、此頭ヨリ一對ノ脚（クリユラ）ヲ生ス、是内方ニ彎曲シテ、卵窓ニ附着セル底面（ヘース）ニ結合ス

今記セル三骨ハ、囊韌帯ニ由テ圍擁セラレ、関節膜ヲ以テ貼裏スル所ノ運動関節ヲ有ス、其槌骨ト砧骨ノ間ニ在ル者ハ、鉸鈕関節ニシテ、砧骨ト鐙骨ノ間ニ於ケル者ハ、杵臼関節ナリ

槌骨懸韌帯(乙)（ソスペンソレ、リガメント）ハ、纖維ノ細帯ニシテ

甲 リガメントム、ソペリオルス
乙 リガメントム、アンニュライル
丙 ムテンソル、ティムパニ

此骨頭ヨリ鼓室蓋ニ展延ス

砧骨懸韌帯(甲)（ソスペンソレ、リガメント）ハ、此骨ノ短突起ヨリ鼓室ノ后部ニ展延ス

鐙骨環韌帯(乙)（アンニュラ、リガメント）ハ、此骨ノ底面ヲ卵圓窓ノ縁ト結合セシム

爰ニ三箇ノ小筋アリ、横紋纖維ヨリ成リ、上ノ諸骨ニ結合シテ其運動ヲ主宰ス

緊張筋(丙)（テンソル、マスクル）ハ、「エウスタキュース」管ノ軟骨端ト、蝴蝶顳顬兩骨ノ近傍面ヨリ起リ而テ「エウスタキュース」管上部ノ顳顬骨管ヲ通過スル后夭、腱

甲 ムレキサトル、ティムパニ

乙 ム、スタペジユス

ニ化シ、鼓室ニ入リ、外方ニ廻轉シテ、槌骨ノ頸ニ附着ス」此作用ハ、鼓膜ノ緊張ヲ增加ス

弛緩筋[甲]「レキサトル、マスクル」ハ、蝴蝶骨ノ棘狀突起ニ起リ、上外方ニ進ンテ淺窩裂ニ入リ、槌骨ノ長突起ニ附着ス」其作用ハ鼓膜ヲ弛緩ス

鐙骨筋[乙]「スタペジユス、マスクル」ハ、三稜柱ノ腔内ニ起リ、鐙骨頭ニ附着ス」其作用ハ、常ニ鐙骨底ノ卵圓窓上ノ壓ヲ主宰ス

其他往々「小鼓膜弛緩筋」「レキサトル、ティムパニ、マイノル」ト稱スル一筋ヲ記載スレモ、尋常其存在スルヲ見ス

鼓室空洞ハ、悉ク軟弱ナル粘膜ヲ以テ貼裏ス」此膜又小骨ヲ被包シ、鐙骨ノ孔中ニ延張シテ、又諸筋及ヒ靭帶ヲ被包ス」此膜小血管ニ富饒スルヲ以テ薔薇色ヲ呈ハシ礡狀内皮ヲ裝セリ

鼓室ノ動脈ハ、微細ナリト雖モ、甚タ許多アリテ内頸動脈ノ鼓室枝錐顳乳頭、大脳膜下行口蓋ノ三動脈、及ヒ内頸動脈ノ、其管ヲ通遷スル部ヨリ、分岐シ來ル」靜脈ハ、大脳膜靜脈ト、咽頭靜脈ニ通シ、又淺窩關節近傍ノ靜脈叢ヲ以テ、内頸靜脈ニ合ス」神經ハ、舌咽頭神經ノ鼓室枝、及ヒ交感神經

甲マストイド、セルス

ノ頸截ヨリ來ル

乳頭洞（甲）マストイドサイノシスハ顳顬骨乳頭部内ニ於ケル、許多ノ不整ナル空洞ヨリ成リ、大孔ヲ以テ鼓室ノ上后部ニ通ス此洞ハ悉ク磚狀内皮ヲ裝セル、軟弱ノ粘膜ヲ以テ貼裏ス

エウスタキュース管ハ喇叭狀ニシテ其長サ一「インチ」半余アリ、鼓室ノ前部ヨリ、斜メニ内前下方ニ向ヒ、咽頭ニ展延ス此管ハ二部ヨリ成ル其上部ハ顳顬骨岩狀部ノ骨管ヨリ成リ、外端ハ鼓室ニ通シ、漸々内方ニ向テ細狹トナリ、内端ハ同骨鱗狀部ト、岩狀部ノ中間ノ角ニ於テ他ノ一部ト抱合ス其下部ハ長クシテ、此角ヨリ、蝴蝶骨ノ后縁ニ從テ内翼狀突起ノ内側ニ進ム此通過ノ間、管ノ横徑漸次ニ擴張シ直チニ后鼻孔ノ后ヘ、咽頭ノ側部ニ至リ、突出縁ヲナシ、貝殼骨ノ高サト、均シキ位置ニ於テ、卵圓形ノ孔ニ終ル此部ハ三角板狀ノ軟骨、屈曲シテ溝狀ヲナシ、外方ニ開裂スル者ヨリ成ル然氏其裂間ハ、纖維膜ヲ以テ閉鎖シ之レヲ全管ト爲ス

此管ハ、顫毛内皮ヲ裝セル、粘膜ヲ以テ貼裏シ其

甲 ラビリンス

膜咽頭及ヒ鼓室ノ粘膜ト連合ス

内耳

内耳（インテルナ、イア）ハ、迷路ト内聴道ヨリ成ル

迷路（甲ラビリンス）トハ、其複雑ナル形状ニ因テ名クル者ニシテ、聴神経ノ分派ヲ、悉ク此部ニ函ミ、以テ聴具ノ最要部ヲナス。而テ顳顬骨ノ岩状部中ニ圍容セラレ、其前庭、半規管、及ヒ蝸牛殻ト称スル三部、相合シテ之レヲ成ス。此部ハ、唯空洞ト為シテ記載スヘシト雖モ、之レヲ圍擁スル骨質造構ノ他、其固有スル骨壁ヲ知ルヲ要ス。嬰児ニ於テハ、此外圍ノ骨質緩鬆ナレトハ、其壁、容易ニ鑿入スルヲ得、然モ発育ノ后ハ、骨質緻密トナリ、迷路ノ外壁ト錯合ス

甲 ヴェスチビユロムラビリンシ

乙 クリスタヴェスチビユリ

丙 エミ子ンチアピラミダリス

丁 マキユラスクリブロサソペリユス

前庭（甲ヴェスチビユール）ハ、鼓室ト内聴道底ノ中間ニ於ケル、不整ナル楕圓ノ空洞ニシテ、半規管ヲ后外方ニ結合シ、蝸牛殻ヲ前内方ニ連合シ、而テ卵圓窓ヲ其外壁ニ穿チ、以テ鼓室ニ通ス

前庭ニ、半輪状ノ幽微ナル起線（乙クレスト）アリ、其床ニ起リ、内壁ヲ上テ蓋ニ達シ、小三稜隆起（丙ピラミタルエミ子ンス）ニ終ル。此隆起ハ、内聴道ニ貫通セル上篩状點（丁

甲 ホッサ、ヘミスフェリカ
乙 ホッサ、ヘミエルリプチカ
丙 マキュラ、クリブロサ、メジア

ソペリオル、クリブリフラーム、スポットト稱スル、細孔ノ第一聚簇ヲ呈ハス」此起線ハ、前庭ヲ二部ニ分隔ス、其形狀ニ從ヒ、一ヲ半球形窩(甲)（ヘミスフェリクル、ホッサ）一ヲ半楕圓狀窩(乙)（ヘミエルリプチクル、ホッサ）ト稱ス、甲ハ小ニシテ、前庭ノ前内部ニ在リ、乙ハ、其后外部ニ占據ス」半球形窩ノ中心ノ直下ニ、内聽道ニ貫通セル、細孔ノ第二聚簇アリ、之ヲ中篩狀點(丙)（ミッドル、クリブリフラーム、スポット）ト稱ス」又此部ヲ過レハ、直チニ蝸牛殼前庭階ノ口アリ、前庭ニ通ス」半楕圓狀窩ニハ、半規管口ト、小血管孔ヲ開ク、此孔ハ、顳顬骨岩狀部ノ后面ニ通スル者ニ

甲 カナールス、セミシルキュラールス

シテ、前庭靜脉ヲ下岩狀竇ニ通過セシム

半規管(甲)（セミシルキュラール、カナールス）ハ、其數三個アリ前庭ノ后外方ニ當テ、鼓室ノ内后部ノ上ニ位ス、之レヲ其位置ニ從テ、上管（ソペリオル、カナール）后管（ポステリオル、カナール）及ヒ下管（インフェリオル、カナール）ト稱ス」前ノ二箇ハ直立シ、后ヘノ一箇ハ地平ナリ、而テ各相關係スル方向ハ、骰子体ノ内后下、三面ノ對向スルニ比ス可シ

此三管ハ、各半環狀ニシテ、一端ハ、耳壜（アムピユラ）ト稱スル膨大ヲ有シ、以テ前庭ニ開口ス他端ハ、膨脹セスシテ、其二箇ハ相合シ、他ノ一箇ト共ニ、亦

甲 マキユラ、クリブロサ、インフェリオル

乙 リコル、コトンニー

タ前庭ニ開口ス、故ニ三管上ニ于テ五口ヲ以テ前庭ニ通ス

后半規管ノ壜中ニ、内聽道ト通スル、細孔ノ第三聚簇アリ、之ヲ(甲)下篩狀點（インフェリオル、クリブリフォーム、スポット）ト稱セリ

前庭及ヒ半規管ノ内部ハ清膜狀ノ軟弱膜ヲ以テ貼裏ス、此膜ハ、骨面ニ粘着セル纖維層ノ骨膜ト、無組織基礎膜層ト磚狀内皮トヨリ成ル、膜内ノ空洞ハ、清液ヲ以テ充ツ、此液ヲ(乙)外液（ペリリンフ）ト稱ス、是レ所謂膜質迷路（メンブラノース、ラベリンツ）ヲ圍擁

甲 サッキユロス、スフェリコス

乙 サッキユロス、エルリプチコス

丙 エンドリンファ

スレハナリ、此迷路ハ、前庭中ニ抱容セラル、一對ノ小嚢ト半規管内ニ入テ、其骨管ト同形ヲ成セル、膜質半規管ヨリ成ル、其嚢ノ一ヲ(甲)球形小嚢（スフェリクル、サッキユール）ト稱ス、稍小ニシテ、半球形窩ヲ盈塡ス、一ヲ(乙)橢圓狀小嚢（エルリプチクル、サッキユール）ト稱ス、稍大ニシテ、半橢圓狀窩ヲ充塞ス、是レ膜質半規管（メンブラノース、セミシルキユラ、カナールス）ニ連合スルノ部ナリ

膜質迷路ハ磚狀内皮ヲ貼裏セル、纖維様造構ヨリ成リ、(丙)内液（エンドリンフ）ト稱スル液ヲ充ツ

内聽道神經ノ前庭枝（ヴェスチビユラ、ブランチ）ハ、膜質迷路ニ

甲 ヲトリシ

分布〆、外液中ニ浮遊ス」此神經ハ、内聽道底ニ於テ三枝ニ分岐ス、其一ハ、上篩狀點ヨリ前庭ニ入リ、楕圓狀小囊ト、上下半規管壜ニ分布シ、其二ハ、中篩狀點ニ入リ、球形小囊ニ分布シ、其三ハ、下篩狀點ニ入リ、后半規管壜ニ分布ス

前庭ニ、結晶細分子ヨリ成レル、二箇ノ塊アリ、之ヲ耳石（甲）（ヲトリテス）ト稱ス」其色白ク、其形ハ扁圓、其質ハ炭酸石灰ニシテ、許多ノ動物之レヲ有スルヲ見レハ、聽具造構ニ、最要ナル一箇ノ原質タルヤ知ル可シ」其部ハ、篩狀點ヨリ、神經纖維ノ穿入點

一

甲 ヨヒス、アウリス、インテルナ

ニ當テ、二箇ノ小囊ノ内面ニ粘着ス、是レ蓋シ各小囊ニ分布セル、神經纖維ニ觸接スルナランシ

前庭ト半規管ノ動脉ハ、前庭神經ノ諸枝ニ伴行セル、内聽道動脉ノ前庭枝ヨリ分岐シ來ル」其靜脉ハ、一ハ蝸牛殼ノ靜脉竇ニ終リ、一ハ下岩狀竇ニ通スル所ノ前庭靜脉ニ終ル

蝸牛殼（甲）（コクリー）ハ、迷路ノ内部ニシテ、其形チ、蝸牛ノ殼ニ類似スルヲ以テ其名稱トス底面ハ、内聽道ノ底ニ附接シ、尖端ハ、少シク前方ニ向ヒ、稍ヤ外方ニ傾斜ス、大約一「インチ」半ノ骨質管ニシテ中軸

甲 コロムハヴゼ、コクリー

アキシスノ周圍ヲ殆ント三廻シ、廻轉中漸次ニ、其軸ヲ上進ス此管ノ起端ハ前庭ノ前部ト結合シテ鼓室ノ岬ヲ成ス、其廻轉右耳ハ左旋シ左耳ハ之レニ反ス、其端ハ、殼蓋コツポラト稱スル盲端ニ終ル是レ顳動脈管ノ上行部上ニ於テ殆ント顳顬骨岩狀部ノ前面ニ達スル者ナリ

甲蝸牛殼軸アキシス、オヴ、ゼ、コクリーハ、圓錐形ニシテ、底面ハ、内聽道底ノ螺旋根ヲ成シ、尖端ハ、蝸牛殼管ノ最終廻轉ノ内壁ト連合ス此軸ハ、螺旋根ノ孔ト連續セル夥多ノ細管ヲ通シ、蝸牛殼神經ノ纖維ト、

甲 華ハスパイラフヲッシー

内聽道動脉ノ蝸牛殼枝ヲ、共ニ通過セシム其中心ノ一管ハ、他管ヨリ大ニシテ軸ノ全徑ニ瀰タリ、上ノ動脉一枝ヲ通ス

甲骨質螺旋板ヲッシユース、スパイラルラミナハ、直チニ前庭ノ半球形窩ノ下ニ起リ、大約蝸牛殼管ノ半徑ヲ横斷シテ、其軸ヲ旋廻シ管ノ頂端ニ至リ、尖鋭突起ニ終ル

此板ハ、許多ノ微細ナル合吻管ヲ通ス、是レ蝸牛殼軸ノ管ニ聯接スル者ニシテ、其口ヲ此板ノ遊離縁溝中ニ開ク

甲 ラミナ、スパイラリス、メンブラナチェー

乙 スケーラ、アイムパニ、ポステリオル、ハ、インテルナ

丙 スケーラ、ヴェスチビュリ、アンテリオル、スーペリオル

蝸牛殻ノ内部ハ、柔軟膜ヲ以テ貼裏ス、是レ前庭ノ膜質ニ連續シ、且ツ類似ス、此膜ハ、骨質螺旋板ノ二面ヲ被包シ、終ニ複層ト為リ、其遊離縁ヨリ展延シ蝸牛殻管ヲ横斷シテ、其外壁ニ固着ス匕此膜ノ展延ヲ膜質螺旋板（甲）メンブラノース、スパイラルラミナト稱ス而テ骨質螺旋板ト共ニ、蝸牛殻管ヲ二道ニ分隔ス、故ニ其尖頂ニ至テ、二道相合スルノミ、此一道ハ、鼓室ノ圓窓ニ終ル、故ニ之ヲ鼓室階（乙）スケーラ、ティムパニト稱シ、一道ハ、前庭ニ開通ス、故ニ前庭階（丙）スケーラ、ヴェスチビュラ、ト稱ス

蝸牛殻ノ兩階ハ、共ニ清澄ノ清液ヲ充ツ、此液ハ、前庭ノ外液ニ流通ス、然ヒ圓窓ニ於テハ第二鼓膜ノ閉鎖スルヲ以テ、其溢出ヲ防ク

蝸牛殻軸ノ鼓室階中ニ在ル部ハ、數孔ノ列ヲ有ス、由テ靜脉ヲ蝸牛殻ノ裡膜ヨリ、此軸中ノ螺旋狀竇ニ通ス匕此階ノ下端ニ又一管口アリ、頸孔ノ前ニ於テ三角ノ小窩ニ終リ、靜脉ヲ此螺旋狀竇ヨリ下岩狀竇ニ通ス

内聴道神經ノ蝸牛殻枝コクリア、ブランチハ、許多ノ纖維ニ分解シ、同名動脉枝ト共ニ、内聴道底ノ螺旋根

孔中ニ入ル」此纖維ハ蝸牛殼軸ノ細管ヲ上ルニ隨テ外方ニ向ヒ骨質螺旋板ニ迸射ス而テ其板中ニ錯蔟ヲ造リ其遊離緣近傍ニ於テ神經細胞ノ列ト混合ス」是ヨリ又神經纖維膜質螺旋板ニ遷リ此部ニ於テ固有ノ神經細胞ヲ相共ニシテ複雜ノ形狀ヲ為ス然レトモ其性質ニ至リテハ未タ確定スルヲ得ス

蝸牛殼ノ動脉ハ專ラ內聽道動脉ノ蝸牛殼枝ヨリ來リ已ニ說示セシ如ク同名神經枝ノ通過ニ伴行ス」此動脉ハ蝸牛殼ノ裡膜ト螺旋板ノ毛細管網ニ終リ是ヨリ靜脉ヲ生シテ蝸牛殼軸內ノ螺旋狀靜脉竇ニ結合ス又此竇ハ一ツノ靜脉ヲ以テ下岩狀竇ニ通ス

甲 ミートスアーヂトリユスインテルンス

內聽道[甲]「インテルナル、ヲーヂトレー、ミートス」ハ長サ大約四分「インチ」ノ三ニ居ル圓筒狀管ニシテ顳顬骨岩狀部ノ後面ヨリ迷路ニ向ヒ斜メニ下前外方ニ進ム其底ニ横行セル新月狀ノ起線アリテ此管ヲ横斷シ不齊ノ二部ニ分ツ其上部ニハ又縱向ノ起線アリ之レヲ二箇ノ小窩ニ別ツ其內部ノ者ハ顏面神經ヲ通スル「ハルロピヤン」管ノ起端ニシテ

甲 タラクトス、スパイラリス、フフラミノロッス

外部ノ者ハ、前庭ノ上篩狀點ニ當リ、此孔ヨリ前庭神經ノ上枝ヲ、楕圓狀小囊ニ通ス、下部ハ大ニシテ、其內方ハ甲螺旋根（スパイラル、タラクト）ヲ以テ充占シ、蝸牛殼神經ヲ通スル、無數ノ細孔ヲ有ス、外方ハ、中篩狀點ニ當リ、前庭神經ノ下枝ヲ、球形小囊ト、上下半規管壜ニ通スルノ部ナリ、又內聽道ノ後壁ニ小管アリ、前庭神經ノ後枝ヲ、後半規管壜ノ下篩狀點ニ通過セシム

內聽道ハ、聽神經ト、顏面神經、及ヒ內聽道動脈ヲ通ス、顏面神經ハ「ハルロピヤン」管ニ入リ、通過ノ後チ、錐顳乳頭孔ヲ出ツ、聽神經ハ蝸牛殼神經（コクリア、子ルヴス）ト前庭神經（ヴェスチビユラ、子ルヴス）ノ二枝ニ分岐ス、甲ハ、無數ノ纖維ニ分解シ、螺旋根ノ孔ニ入リ、分布スルコト上ニ示セル如シ、乙ハ三枝ニ別レ、無數ノ纖維ニ分解シ、三箇ノ篩狀點ヲ通ス、是亦上ニ記載セシ如シ

內聽道動脈ハ、基礎動脈ノ一枝ニシテ蝸牛殼枝ト前庭枝ニ支別シ、同名神經ト同行ス

甲 [illegible]エチス

甲皮膚（スキン）

皮膚及其附屬

皮膚ハ觸官ノ具ニシテ、健康ノ狀態ニテハ、

其性、疼痛ノ感覺㝡モ敏捷ナリ、由テ生活ヲ損害シ、或ハ破壞スヘキ外襲ヲ避ケ又其特異ノ造成ニ由テ体中諸液ノ蒸發ヲ防ク、然レ圧他器ト関渉シテ、其液ノ剩餘ヲ排泄ス凡テ其㝡モ露呈スル部ハ、亦タ随テ厚シ乃チ背部、四肢ノ外部、手掌及ヒ足蹠ニ於ケル如シ又タ眼瞼、口唇、陰莖前皮ノ内面、及ヒ龜頭ニ於テハ、㝡モ薄シ

皮膚ハ、適宜ニ延長シ撓屈シ、稍弾力ヲ有シ、且ツ半透明ニシテ其色ハ人種及ヒ各人ニ由テ異ナリ、殊ニ手掌及ヒ足蹠ニ於テハ、平行セル微細ノ

デルマ

起線ヲ密布ス、是レ多分ハ、曲線ニ列シテ、特異ノ正形ヲ呈ス其他部ニ於テハ、網狀ノ細溝ト、毛竅ヲ呈ハシ又屢、皺襞ヲ造リ、或ハ屈伸スル部ハ、多少粗襞ヲ生ス乃チ額及ヒ許多ノ関節ノ周圍ニ於ケル如シ

皮膚ハ、主タル二層ヨリ成ル、即チ真皮及ヒ表皮ナリ又タ二種ノ腺ト、二類ノ附属ヲ具フ、即チ汗腺、皮脂腺、及ヒ爪毛ナリ、以下之ヲ辨説ス

真皮（甲デルミス）ハ、皮膚ノ深層ヲ為シ、身体中皮膚ノ㝡モ厚キ部ハ、亦随テ厚シ乃チ眼瞼ニ於テハ、其厚

積、大約六分線ノ一ニシテ、体ノ前部ニ在テハ、四分線ノ一ヨリ半線ニ至リ、背部ト足踵ニ於テハ、半線ヨリ一線半ニ至ル、而テ婦人ハ、男子ヨリモ薄ク、小兒ハ、大人ノ半積ニ在リ、又老年ニ近ケハ、逐次ニ薄變ス、其色、薔薇様ノ乳油色タリ、然レモ部位及ヒ血管ノ多少ニ随テ、色ノ淡濃ヲ異ニス

造構ハ、主モニ纖維組織束ノ鋭角ヲ為シテ、密ニ縱横間錯セシ者ヨリ成リ、且ツ稍弾力組織ヲ混合ス、此組織ハ、体ノ前部ト、関節ノ周圍ニ密モ多ク、其他、無紋ナル筋纖維ヲ含ム、此纖維ハ、真皮ノ

ノ上部ヨリ、毛胞ノ底ニ下ル、故ニ寒冷、電機、或ハ驚愕ノ感動ヲ以テ、此筋纖維ヲ興奮シテ收縮セシムレハ、彼ノ毛胞ヲ舉上シテ、所謂鳥肌ヲ呈發ス、

真皮ハ、其外面ニ近ケハ、密モ緻密ニシテ無組織層、即チ基礎膜ヲ以テ限界ス、其内面ハ、表在莢膜ノ脂肪層ノ結締組織ト連合シ、或ハ其脂肪層無キノ部ハ、結締組織ニ由テ、表在莢膜ノ深層、或ハ其他下部ノ造構ニ粘着ス、而テ此結締組織ハ、緩鬆ニシテ、多少延長性アリ、乃チ皮膚ヲ前後ニ運

甲パピラタクトス

動セシム、若シ此内面遊離シテ結合セサル所ハ、粗ナル網狀ヲ為シ、其細眼ハ、脂肪組織ノ小圓体ヲ以テ充盈ス」外面ニハ饒多ノ微突起ヲ具フ、其機能ニ就テ、之ヲ觸覺乳嘴[甲]（タクチール、パピラ）ト稱ス、其數及ヒ發育ノ度ハ、体中ノ部位ニ隨テ差異アリ、乃チ手掌ト足蹠ニ於テハ、數モ多ク且ツ長ク、而テ皮膚面ノ微細ナル起線ニ應スル眞皮ノ起線上ニ占位シテ、二重ニ並列ス」又タ陰莖ノ前皮、龜頭、小陰唇、肉様尖、及ヒ乳房ニ於テ數多アリ、其他ノ部ニテハ、甚タ隔離シテ、僅カニ發育シ、且ツ顔面ニテハ、殆ト缺乏セリ

件ノ乳嘴、數モ巨大ニ發育セシ者ハ、圓錐形ニシテ、單一ノ者アリ、又複合ニシテ一箇ノ底面ヨリ、二三余、發生スル者アリ」發育不全ノ乳嘴ハ乳房狀、即チ疣狀ヲ為シ、又逐次ニ、唯タ眞皮面ノ微弱ナル起線ニ化ス」此乳嘴手掌及ヒ足蹠ニ於テハ、其丈ケ三十分線ノ一ヨリ十分線ノ一ニ至リ、又他部ニ於テハ、三十分線ノ一ヨリ八十分線ノ一ニ至ル」此乳嘴ハ無組織基礎膜ヲ以テ限界スル、眞皮ノ纖維様造搆ノ連續ヨリ成リ皮膚神經ノ

末端ト弦狀毛細管ヲ受容シ、又手掌ト足蹠ニ於ケル、或ル乳嘴中ニハ、所謂觸覺球（タクチール、コルボスクル）ナル者、即チ一種固有ノ体ヲ含有ス

真皮ハ、血管、水脉、及ヒ神經ニ富饒ス、皮膚動脉ハ、其下部ヨリ入リ毛細管網ト為リテ終リ、真皮ノ表面ニ近ツクニ随テ愈密接シ、此管網ヨリ、弦狀ノ單管ヲ出シテ、觸覺乳嘴ニ送ル、又皮膚ヨリ出ツル静脉ハ、其動脉ヨリモ、尚オ大且ツ數多ニシテ、皮下ノ表在静脉幹ニ終ル、水脉モ、亦タ真皮中ニ、複雑ノ網狀ヲ為シ、体軀及ヒ四肢ノ前内部、殊

ニ手掌足蹠ニ於テ、最モ數多ナリ、又神經モ、饒多ニシテ、種々ノ皮支ヨリ來ルヿハ、既ニ神經篇ニ記セリ、而テ此神經ハ、真皮ノ表面ニ蔓延シテ、觸覺乳嘴ニ入ル、然レ𪜈其末端ノ景况ハ、未タ明瞭ナラス

真皮ヲ煮レハ、溶解シテ膠質ト為ル、諸術ニ採用スル膠類ハ、獸皮ノ切片ヨリ産生スル多シ、又之ヲ鞣スレ𪜈ハ、鞣革ト為リ、或ハ脂肪、及ヒ其他ノ諸質ヲ除奪シテ、適宜ニ薄片ト為セハ、羊皮紙ト為ル、此革片ノ截端ト、粗糙面ハ、真皮ノ纖維様造搆

ヲ示シ、其滑澤ナル外面ハ、毛胞ノ口、乳嘴及ヒ他ノ徴痕ヲ呈ハストス、

表皮

表皮（甲）（エピデルミス）ハ、皮膚ノ表層ヲ成シ、其真皮ト相関係スルコト、猶オ内皮ノ粘膜ニ於ケルコトク、此層手掌足蹠ニ於テハ、最モ厚クシテ、十分線ノ一ヨリ、十線余ニ至ル、其他部ニ於テハ、甚タ薄クシテ、大約六十分線ノ一ヨリ、十分線ノ一ニ至ル然レ圧此厚薄ハ、半ハ、其平常従属スル壓力ト、摩擦ニ歸ス、故ニ奴隷ノ手掌、及ヒ農夫ノ足蹠ノ如キハ

甲　キユチキユラ

愈厚シ又肉刺ハ、過度ノ壓力ト摩擦ヲ受ケテ、硬變シタル、表皮ノ一局點ニシテ、常ニ足部ニ生スルノミナラス、間〻、沓工ニ於テハ其膝頭兵卒ニ於テハ其鎖骨前部ニ生ス、是レ其業營ニ由テ然ルナリ肉刺ノ為メニ、屢〻疼痛ヲ発スルコトアリ、是レ其壓力ニ由テ、知覺敏捷ナル真皮ニ、焮衝ヲ起サシムルナリ、猶オ砂石ノ竄入ニ由テ發スル景況ノ如シ

表皮ハ、全ク血管ヲ有セス、自己ノ榮養液ヲ、真皮ノ血管ヨリ吸収シ又タ神經ノ分布ナキカ故ニ、

全ク知覺アラス、然レ𪜈壓力ニ因テ、甚タ敏捷ナル眞皮ニ、諸感ヲ通達シ、且ツ其柔軟ナル造構ノ毀傷、及ヒ乾燥ヲ防禦ス」故ニ若シ表皮ヲ剥離セハ、唯タ大氣ニ觸ルヽノミニテ、眞皮ニ焮衝ヲ起スニ足リ、又タ死后ニテハ、速ニ乾燥スル者ナリ」

表皮ハ、全ク各異ノ二層ヨリ成ル、即チ表層及ヒ軟層是ナリ、

表層甲「ギユチクル」ハ、殆ト乾燥シ、稀黄色ニ透明ナル角質様ノ膜ナリ、肉刺ノ生セシ𪜈其薄片ヲ以テ、徴知シ得ルナリ」深部面ハ、軟層ト連合シテ、是ヨリ

常ニ補給シ、又タ隨テ其表部ノ面ヨリ、次第ニ老廢シ、所謂鱗屑ト為テ剥脱ス」許多ノ下等動物、例之ハ蛇類ノ如キハ、時アリテ、其全形ヲ脱衣ス」此層ハ、其部ノ厚薄ニ從テ、微細ナル鱗屑ノ數枚ヨリ成ル、是レ全ク扁平ニシテ殆ト乾燥セル有機「セル」ナリ、此「セル」ハ、粒狀物ノ小量ヲ含ミ、尋常核ヲ有セズ、然レ𪜈屢〻此層ノ深部ニ於ケル者ハ、核ノ殘餘ヲ含メリ」

件ノ鱗屑ヲ、剥荅斯ノ溶液ニ浸セハ、各箇ニ遊離シ膨脹シテ、殆ト球形ノ胞ト為ル、故ニ亜爾加里

ノ溶液ハ、表皮ヲ剥除スルナリ、又タ發胞膏或ハ火傷ハ、真皮ノ焮衝ヲ起シ、液ヲ滲出セシメ、其液、軟層ヲ破リテ、表層ヲ上壓シ、即チ水胞ヲ生セシム

死后、皮膚ヲ浸漬スレハ軟層ノ分解スルニ隨ヒ表層ハ、真皮ヨリ遊離ス、然ルヿ表層、尚オ自己ノ形狀ヲ保ツニ、充分強ク且ツ厚ケレハ、大ナル片々ヲ為シテ剥除スルヲ得ヘシ、故ニ容易ニ、手ヨリ手套（テヌキ）ノ如ク、剥離スルヲ得ル者ナリ

甲軟層（ソフト、エビデルミク、レーエル）ハ、柔粒狀物ト核ヲ含ヘ軟弱ナル、多角「セル」ノ數板ヨリ成ル、而テ其「セル」ノ上層ハ漸次ニ扁平ト為リ、常ニ表層ノ較く乾燥スル鱗屑ニ變形シ、又タ從テ真皮面ヨリ、之ヲ補給ス

白皙人種ニ於テハ、彼ノ軟層無色ニシテ透明ナルヿ、猶オ表層ノコトシ、故ニ真皮ノ色ト、爰ニ分布スル血管ヲ透見セシム、黒人種ニ於テハ、其「セル」殊ニ深部ニ在ル者、褐色或ハ黒色素質ヲ充滿シ、此人種ノ黴色ヲ與致ス、此色素ノ小量ハ、自餘ノ人種、及ヒ各人ノ容色ヲ呈ハシ、然ルノミナラ

ス、一人上ニテモ皮膚ノ各部ニ、種々ノ色彩ヲ生ス、雀斑（ソバカス）ハ、其色素ノ發育、即チ増盛ニ歸シ、黒子（ホクロ）ハ、其一點ニ、聚積セシ者ナリ、然レドモ此軟層、變形シテ表層ニ遷レハ、此色素質ハ「セル」ヨリ消失ス

汗腺

汗腺（甲）（スウエートグランヅ）ハ、大概皮膚ノ諸部ニ存在シ、其全數、大約一百萬ニ滿ツ、其色、帶黄赤色ニシテ、殆ト圓形ヲ為シ、直徑ハ大約六分線ノ一ニシテ、真皮ノ深部ニ於ケル、間隙中ニ占位シ、尋常、脂肪組織ヲ以テ圍擁ス、此腺ハ、各、巻廻シテ、一ノ球形ヲ為

セシ一管ヨリ成リ、其端汗管（スウエートダクト）ト為リ、稍ヤ迂曲シテ真皮ノ外面ニ上ル、此管ハ、基礎膜層ヲ以テ、限界スル、纖維様外層ヨリ成リ、磚狀内皮ヲ貼裏ス、此内皮ハ、核、粒狀物、及ヒ稀黄色素分子ヲ含メル、多角ノ「セル」ヨリ成ル

真皮ノ面ニ開ケル、汗管ヨリ、表皮ノ外部ニ、又一ノ道路ヲ生ス、而テ表皮ノ薄キ部ハ、其道路直行スレドモ、手掌、足蹠ノ如キ、厚部ニ於テハ、螺旋形ヲ為シ、漏斗狀口ニ終ル、此管口ハ、尋常ノ袖珍連斯ヲ以テ、手掌ト足蹠ノ微細ナル起線ノ尖頂ニ、一

甲「グランジユラスヺドリヱ ラスヺヅハホア子ル」

列ヲ為スヲ看取スヘシ、然レモ其他部ニ於テハ、斯ク容易ニ看別シ難シトス

汗腺ノ變態スル者ハ耳ノ條下ニ記スル所ノ耵聹腺ヲ為シ、又腋下臭腺（甲）（ヲドリヱロース、グランヅヲヴゼ、アキシルラ）ヲ成ス、此腺ハ、腋下毛部ノ皮下結締組織、及ヒ脂肪組織間ニ、聚合シテ、直徑一「インチ」半余ノ切片狀ヲ成ス、其片ノ中心近傍ニ於テ、最モ巨大ニシ、周圍ニ向テ、漸次ニ細小シ、爰ニ於テ、尋常ノ汗腺ト為ル、此腺ハ、黒人種ニ於テ、甚タ能ク發育シ、其最モ大ナル者ハ小豆大ニ至ル、此腺ハ、暗赤色、或ハ

乙「スドール」

帶黃赤色ニシテ、尋常ノ汗腺ノ如ク、球狀ニ卷廻スル一管ヨリ成リ、其端、排泄管ト為リテ、皮膚ノ外面ニ開達ス、此管ノ壁中ニハ、無紋ナル筋纖維ヲ含ミ、其管内ハ、褐色或ハ黃色ノ色素ト、脂肪分子ヲ混合セル微細ノ粒狀物ヲ充盈ス、此腺ハ、汗ノ多量ヲ分泌スルノ他、強烈ノ臭氣物ヲ泌別ス、蓋シ人種ニ由テ稍ヤ差異アルナリ

汗（乙）（スヱート）ハ、清澄水樣ノ液ニシテ、酸性ノ反應ト、塩味ヲ含有ス、此液ハ蟻酸、牛酪酸、醋酸、及ヒ種々ノ塩類ヲ含ム、就中、其塩ノ最モ多量ナル者ハ、塩化

グランジュラスセバシー

曾實謨タリ

皮脂腺

（甲）〔皮脂腺〕セバシヨー スグランヅー ハ、甚數多ニシテ、手掌足蹠ヲ除クノ他、大概、諸部ニ存在ス此腺ハ、多分毛胞ニ連合スル者ニシテ、各自毛胞ノ周圍ニ、二乃至八箇ノ聚簇ヲ為シテ、真皮ノ上部中ニ、包裡セラル凡テ其大ナル者ハ、小毛胞ト共ニ存在ス、故ニ之ヲ見ルニ、其毛胞ノ要ナルヿ、此腺ニ次ケルカ如シ又相反シテ、其小ナル者ハ、對ヲ為シ、以テ頭髪ト連合ス其最モ大ナル者ハ、鼻、耳殻、陰莖ノ皮膚、陰

嚢、陰唇、及ヒ婦人乳輪ノ皮脂腺ナリ、各、毛胞ト連續セル腺ノ聚簇ハ、半透明ノ皮膚中ニ在テ、圓形白色ノ体ヲ呈ハス、而テ其直徑、十分線ノ一ヨリ、半線余ニ至ルナリ

皮脂腺ハ、一箇、或ハ數箇ノ錢嚢狀ノ胞ヨリ成リ、而テ單腺ト複腺アリ、其排泄管ヲ毛胞口ニ開ク、或ハ其大ナル者ニ於テハ、毛胞口ト共ニ、皮膚面ニ開ク造搆ハ、基礎膜ニテ限界シ、内皮ヲ裝貼スル、纖維組織ノ軟弱ナル壁ヲ有シ、其内皮ハ、粒狀物ヲ含メル、多角ノ有核「セル」ヨリ成ル此腺ノ腔

セボム

内ハ、「セル」ト油球ヨリ成レル、「皮脂質物」（甲 セバシヨース、マットル）ヲ充ツ、而テ又其「セル」ニ、只油質ノミヲ含テ、膨脹スル者ト、油滴ニ微細ノ粒狀物ヲ混合スル者アリ

皮脂質物ハ、其發生スル所ノ毛髮ニ、油質ヿ粘着セシメ、又タ表皮ヲ滲透シテ、却水衣ト為ス、此物質ニ歸セル、皮膚面ノ油性ハ、垢埃ヲ留着セシメ易ク、容易ニ其過度ヲ除クニハ、必ス石鹼ヲ用ユ、然レ𪜈過用セハ、表皮ノ油質ヲ、損亾シ、以テ皮膚ヲ乾燥、及ヒ粗糙ニス」此質物、屢濃厚ト為テ、腺ヲ

ピリ

アカロスフヲルリキユロロム

腫脹セシムルヿアリ、蓋シ最屢顏面、殊ニ鼻部ニ於テ然リ、而テ其管口ニハ、常ニ垢埃ヲ充ツ、之ヲ逼壓セハ、其管形ニ從ヒ、且ツ一端ニ、垢埃ヲ附着シテ、突出スルヲ以テ、俗間ニテハ、那ノ蟲ト做シ、乃チ其端ノ垢埃ヲ蟲頭トセリ、又此質物ハ右等ノ事ニ關セスシテ、健康ノ各人ニ於テ「（甲）ピムプル、マイト」ト稱スル、奇形ノ寄生動物ヲ含ム

毛髮

「毛髮」（び ス）ヘアハ、皮膚ノ附屬ニシテ、硬固ナル、絲線狀ヲ成シ、手掌及ヒ足蹠ヲ除クノ他、大概諸部ヨリ

甲 カピリ
乙 ラヂキス、ピリ、
丙 ボルビユス、ピリ、

發生ス其品撓屈彈力性ヲ具シ且ツ光輝アリ然レモ人種、男女、各人、及ヒ体中諸部ニ於テ、發育ノ度、並列ノ况、及ヒ其細纖色彩形狀ヲ異ニス而テ頭髮ノ長キヨリ殆ト看ル能ハサルノ微毛ニ至ルマテ其大サノ度種々タリ

毛髮ノ皮膚上ニ發出セル部ハ「毛体」[甲](シヤフト)即チ「毛幹」(ステム)ニシテ「毛點」(ポイント)即チ「毛端」(エンド)ニ終ル其皮膚下ニ在ル部ハ「毛根」[乙](ルート)ニシテ、「毛球」[丙](ボルブ)ト稱スル末端ノ膨大ヨリ起始セリ、凡テ毛髮ハ只タ一幹、或ハ二三余聚簇シテ、皮膚ヨリ斜生ス而テ体中ノ諸部位ニ於テ、多分ハ各箇ノ一點ヨリ起リ、曲線ヲ為シテ、並列スルナリ

白人種ノ細キ絹狀ノ頭髮ハ圓柱狀ヲ為シ、鬚毛ト其他部ノ小毛、及ヒ黑人種ノ頭髮ノ如キ、脆弱ニシテ巻縮セシ毛ハ、多少扁平ノ柱狀ヲ成ス

造搆ハ、外皮、皮質、及ヒ内部ノ髓質ヨリ成ル

「外皮」(キユーチクル)ハ、薄キ無色長方形ノ鱗屑、即チ全ク扁平ナル「セル」ノ單層ヨリ成ル其形狀、恰モ數片ノ葦板、相聚テ全屋ヲ蓋ヘルカ如シ此鱗屑ノ挺出スル縁ハ、毛幹ニ從テ、上外方ニ向フ、故ニ毛髮ヲ

コルテキス

顯微鏡下ニ撿スレハ、不整ノ波狀ヲ為セシ横行線ヲ見ル、又タ是等ノ事ニ関セス、鱗屑縁ノ挺出スルヲ以テ、毛髪ノ一條ヲ二面間ニ挿ミ毛根ヲ牽引スルノ他諸方ニ運動セシムレハ、稍ヤ障碍ヲ致ス」又タ獸毛ヲ織成スル際之ト同一ノ景況アリ

皮質（甲）コルチクルソプステンス ハ、最モ毛質ヲ為シ、毛色ノ人種及ヒ各人ニ由テ異ナルハ、主モニ此質ニ属ス白髪ニ於ケルカ如ク全ク透明ト為ルキハ、其質顯微鏡下ニ、縦線ヲ呈ハス、是レ撓屈性纖維ノ層ヨリ成リ、此纖維ハ、線狀ノ梜ヲ有セシ、甚タ細長ナル、紡錘形ノ「セル」ヨリ成ル、而テ屢〻毛髪ノ乾燥セシキ、或ハ之ヲ摩擦セシ后チ毛端ニ於テ、多少分裂ヲ為ス

メジユラ

毛髪ノ色素ハ、尋常、皮質中ニ、汎延ス、然レモ屢〻線狀或ハ斑點ト成テ蓄積スルヿアリ、一般ニ老年ニ於テハ、此色素ノ消耗スルヲ以テ、皮質ヲ白色ト為ス

髓質（甲）メジユラレ、ソブステンス ハ、屢〻鈌亡スルヿアリ、暗色ノ頭髪及ヒ体軀ノ微細ナル、纖毛ニ於テ、殊ニ然リ」

此物毛軸ヲ充タシ、透徹光ヲ以テ看取スレハ、暗色ニシテ粗糙ナル、粒狀線ノ如ク、而テ尋常、同等ノ横徑ヲ有スレ圧、屢紋窄ヲ呈シ時トシテハ、其中途ニ於テ、全ク斷絶スルヿアリ」又反射光ニ由テ、看取スレハ、白色ヲ呈ス、然レ圧上層ニ於ケル、皮質ヲ透視スルガ故ニ、稍變色セザルヲ得ス」此質ハ、粒狀物ト、不明ノ核ヲ有セシ、殆ト方形ノ「セル」ヨリ成ル者ナリ

凡テ髓質ハ、毛端ヨリ竄入シテ、小胞ヲナセシ多少ノ空氣ヲ混合ス」此質、白髮ニ於テハ、其徵タル、銀色ノ光澤ヲ賦與ス

フヲリキユロスピリ

毛根ハ毛胞（ヘアフルリクル）ト稱スル、皮膚ノ壜狀ノ凹窩ニ入ル、其底ニ於テ、乳嘴アリ、是ヨリ毛髮ヲ發育ス」毛胞ハ、真皮中ニ、被包セラレ、或ハ大毛ニ於テハ、延長シテ皮下結締組織、及ヒ脂肪組織ニ至ル、是レ畢竟、皮膚ノ彎曲シテ成ル、皺襞ニシテ、其底ニ於ケル、毛髮乳嘴ハ觸覺乳嘴ノ變態ナルト看取シテ可ナリ

毛胞ノ壁ハ、基礎膜ヲ以テ、限界スル、纖維層ヨリ成リ、彼ノ表皮ノ彎曲シテ成ル、皺襞ヲ以テ、貼裏

ス此彎曲ノ表層部ハ、尋常、皮膚ノ遊離面上ノ表層ト、著シク變態シ、較厚キ透明彈力膜ヲ成ス其膜ハ、稍ヤ長形ナル、無核ノ「セル」有孔膜狀ヲ為シテ、互ニ粘着シ、以テ成ル此彈力性表層ハ、其下ノ軟層中ニ融合シテ、密ニ毛根ヲ掌握ス、恐クハ此層、乳嘴ヨリ、毛髪ノ發生スルニ從テ、毛根ヲ壓進シ、恰モ引板ヲ通シテ、鐵線ヲ搾出スルカ如ク為ス可シ

甲 パピラピリ

甲毛髪乳嘴ヘアパピラハ、其造成、纎弱ナリ、而テ楕圓形ヲ為シ、毛細管ト、神經ヲ含ム毛球ハ、此乳嘴ヲ圍

擁スルカ故ニ、毛髪ヲ拔ケハ、乳嘴ヲ牽引シテ疼痛ヲ起スナリ

毛根ハ、毛幹ヨリモ、柔軟且ツ太トシ、然レヒ發育シテ、幹ト為レハ、其性質ニ化ス毛球ハ柔軟透明ニシテ、毛髪乳嘴ノ底ニ於テ毛胞ノ表皮層ト、連合スル、柔軟多角ノ有核「セル」ヨリ成リ、此「セル」ハ逐次ニ、上部毛根ノ外皮ト、皮質及ヒ髓質ニ轉徙ス

件ノ「セル」其前記ノ諸質ニ變形スレハ、又從テ乳嘴ヨリ、新「セル」ヲ產生シ、以テ毛髪ノ成長ヲ持續

スルナリ

毛髪ハ表皮ノ如ク其營養質ヲ資ルヿ亦タ吸收ニ由テ致ス而テ其液ヲ一ノ「セル」質ヨリ他ノ「セル」ニ送リ全毛中此ノ如クシテ逐次ニ其量ヲ減少ス

毛髪ハ健康体殊ニ病後ニ於テハ絶ヘス發育シテ補續スルノ他尚オ一條全ク脫落シテ更ニ新條ヲ生ス是レ毛髪ヲ拔除スルキニ於ケルカ如ク其新條ハ從前ノ毛胞ヨリ生シ又稀ニ新乳嘴ヨリ生スル者アリ屢老年ニ起ル所ノ持久セル剥禿ハ毛髪乳嘴ノ萎縮ニ起因ス

死後ニ於テ鬚毛ノ假ニ發育スルカ如キハ其實全ク本態ニアラス唯皮膚ノ陷没スルニ由テ此毛根ヲ挨出スル者ニシテ大約八分一「インチ」突出スル者ナリ

ヲンギエース

爪

爪甲（子ールス）ハ角質ナル皮膚ノ附屬ナリ猶オ獸類ノ爪蹄ニ於ケルト同シ而テ薄ク且ツ撓屈性アル透明長方ノ板ニシテ表皮ニ連合シ爪母（マトリキス）即チ爪牀（ヘットド）ト稱スル真皮ノ凹面上ニ安置ス

爪ノ露出スル部ヲ、爪体（ボデー）ト云フ、其前部ハ、遊離縁（フリー、ボルドル）ニ終ル、爪根（ルート）ト称スル、爪ノ後方三分或ハ四分ノ一ハ、爪母ノ深溝ニ入リ、側縁ハ、浅溝中ニ受容セラルヽ、爪体ヨリ、根ニ向テハ、逐次ニ薄變シ終ニ鋭端ニ至リ、側縁ハ、甚タ忽然ト、外方ニ薄變ス

爪ハ、透明ナルニ由テ、爪母ノ赤色ヲ呈ハス、其色ハ、此部ノ血管ニ富饒スルニ歸スヽ、爪根ニ於テ爪母ノ血管ヲ減少スルハ、半月状線アリテ限界シ、乃チ半月体（ルニユラ）ト称スル、白點ヲ生スヽ、爪体ノ

遊離面ハ、光輝アリ、幽微ノ縦線ヲ呈ハシ、其下面ハ、同方ノ細溝ヲ有ス

爪母ハ、真皮ノ甚タ血管多キ部ヨリ成リ、饒多ノ乳嘴ヲ有スル、微細ノ縦起線ヲ簇布スヽ、此起線ト、乳嘴ハ、爪ノ下面ノ溝中ニ入ルヽ、是レ他部ノ觸覺乳嘴ト同一ナリ

爪ハ浸漬ニ由テ表皮ト連續シテ、真皮ヨリ脱落ス、是レ真皮ニ、一ノ軟層ヲ以テ附着スル、厚キ角質ノ層ヨリ成ル者ナレハナリ

角質層（ホルニーレーニル）ハ、表層ト同一ニシテ、扁平ナル、

有核「セル」即チ鱗屑ノ數多密着セシ、板ヨリ成ル」是唯タ亜爾加里類ノ如キ、化學的試藥ヲ用ヒテ顯微鏡上ニ區別スルヲ得可キノミ

甲 ストレートムマルピギー

（甲）軟層「ソフトレイエル」ハ、表皮ノ軟層ト、同一ニシテ、軟弱多角ノ有核「セル」ヨリ成ル」此「セル」ハ、常ニ角質層ノ鱗屑ニ變形シ、又從テ絶ヘス眞皮面ヨリ、之ヲ補給ス」爪ハ、其根ニ於テ、「セル」ノ增加スルニ由テ成長シ、又下面ニ其附着スルヲ以テ、厚積ヲ增加スル者ナリ

味官

此官ノ具ハ既ニ舌ノ部ニ記載セリ

解剖訓蒙巻之二十終

文海堂製本翻譯醫書略目録

化學初階　美國 嘉約翰 口譯　羊城 何瞭然 筆述　日本 高見岱 校閲　全四冊

病院經驗方府　高橋正純先生輯　横本全二冊

華氏日用新方　森鼻宗次先生抄譯　全三冊

增補訂正日用藥劑分量考　同 譯輯　小本全一冊

藥劑新書　同譯　全三冊

獨逸氏外科新説　同 譯述　十八冊出板

皮下注射要畧 同譯 全一冊

撿脉新法 單涅兒氏原撰 森鼻宗次先生譯補 全一冊

全體新論 森鼻宗次纂譯 一冊出板

内科全書 森鼻宗次譯 三冊出板

新藥摘要 同譯 改正全四冊

對症方選 高橋正純輯 横本全四冊

備急消毒表 同撰 一枚摺

病類一覽表 森鼻宗次撰 一枚摺

西洋新撰藥名早引 安川通濟輯 全一冊 洋書仕立

解剖訓蒙 米國烈第氏原本 啓蒙義舎蔵版 全十九冊

虞列伊氏解剖訓蒙圖 松村矩明訳 啓蒙義舎蔵版 全二冊

解剖摘要 米利堅醫尼兒私爾斯両氏合著 日本 松邨矩明口述 高木玄真編撰 全七冊 圖式一冊

生理新論 和蘭越爾墨連士氏口述 日本松邨矩明筆録 啓蒙義舎蔵板 四冊出板 次篇近刻

達爾頓氏生理書 初編 藻寄隆次譯 次編 物部誠一郎譯 圖付

文海堂蔵

生理訓蒙　獨逸國恵美麗氏著　日本　菅野虎太譯　全三冊

用藥須知　池田一松輯　全一冊

華氏解剖摘要　ハルツホウルン氏著　村上典表譯　小本全九冊　圖式一冊

華氏有機化學　同譯　全一冊

華氏化學書　同譯　全四冊

虎烈刺病論　高橋正純編輯　全一冊

體液成分篇　松尾耕三編輯　全一冊

民間救急醫法　岡澤貞一郎譯輯　全二冊

辨涅篤氏打診圖譜　同譯　壹枚摺　折本

日用製劑早引　三井玄孺纂輯　西洋綴　全一冊

日用製劑一覽表　同　編輯　折本全一冊

虎烈刺治法必携　竹内耕吉纂輯　全一冊

病理各論　満斯歇児篤氏著　佐藤方朔譯　全八冊

對症辨明　遠藤周民纂輯　全一冊

列別兒篤氏窒扶斯病論　高橋正直譯　高橋正純閲　全二冊

産科要訣　英國 西洫印 原著　和蘭 蒲鹿兒斯 增補　日本 高橋正純 譯　全三冊

刀圭雜誌　每月三號 出版

解剖組織論　新宮凉齋纂譯　圖入三冊

全體新論　英國 合信氏 著　全二冊

醫用化學　米國 ニールスミス 著　日本 松村矩明 譯　全三冊

增訂解剖訓蒙　米國 列華氏原本　啓蒙義社藏板　今田束增訂　活字版西洋綴　全一冊

明治九年一月十二日　版權免許

著者出版　敦賀縣大野士族　松村矩明

發兌　大阪書林　前川善兵衞
同　淺井吉兵衞
同　中島德兵衞

書肆　同　松邨九兵衞
東京書林　島村利助

發兌書肆

東京書林 島村利助

同 [illegible]

同 中島精次郎

同 浅井吉兵衛

大阪書林 前川善兵衛

著者出版 滋賀縣士族 大阪府[illegible] 松村操明

明治[illegible]年[illegible]月十二日 版權免許